

# 火葬場の現状と問題

☑メモリアル施設及び  
周辺環境整備推進室（谷内線137）

## 中津川市の火葬施設

中津川市の火葬施設は、中津川斎場（築48年）、坂下火葬場（築62年）、付知火葬場（築34年）の3カ所です。以前は蛭川地区と加子母地区にも火葬場がありましたが、老朽化により数年前に廃止となりました。

必要不可欠な施設として市内外の方にご利用いただき、年間約1000件の火葬を執り行なっています。

どの施設も築30年以上経過し、建物や設備などの老朽化が進んでいます。毎年約1000万円の修繕工事を3施設で行なっていますが、将来的には修繕工事だけでは補えなくなります。



▲中津川斎場待合室

◀中津川斎場ホール



付知火葬場（1989年建設）



坂下火葬場（1961年建設）



中津川斎場（1975年建設）



## 老朽化した火葬施設

昔ながらの厳かな造りの火葬施設はバリアフリー化されておらず、待合室やトイレも少ないため、すべての人が快適に利用できるとは言えません。

火葬設備が古く、職員個人の技術が求められます。安定した火葬サービスの維持するために、火葬技術の職員研修を定期的に行なっています。

また、火葬時間が長いため、待合室を利用されることなく、葬儀などへ戻る方が多く見られます。



▲ホール入口。車寄せの天井が低くバスが通れない。

## 新施設の必要性

近年の火葬施設は住宅密集地に建設されるケースもあり、外観はホテルのようで、煙突もありません。排気の技術も進み環境に配慮した施設となっています。火葬設備もシステムを用いた自動化が進み、職員個人の技術に大きく頼らず安定した制御が可能となります。

老朽化による施設更新はもちろんのこと、火葬サービスのありかたを大きく変えるためには、火葬施設のみならず周辺環境を含めた計画が必要になります。



▲中津川斎場屋根修繕工事の様子

～今後のお知らせ～ この連載は全5回を予定しています。

### 次号予告

- ・これまでの新斎場建設推進の取り組み
- ・他市の新しい火葬施設の視察 参加者募集

6～7月頃に市民の方を対象とした、他市の新しい火葬施設の視察を予定しています。（20人程度募集）行き先や募集方法などの詳細は5月号に掲載します。ぜひご覧ください。